

畠山耕治一青銅を鑄る

Koji Hatakeyama

Founding Worlds of Bronze



1, 「青銅で在ること」2022 年

2022 年 9 月 17 日(土)～12 月 11 日(日)

菊池寛実記念 智美術館

東京都港区虎ノ門 4-1-35 TEL 03-5733-5131

※プレスレビューのご案内は最終ページです。

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素より、菊池寛実記念 智美術館の活動にご理解とご協力を賜り、誠に有難うございます。この度は、9月17日から12月11日まで開催いたします「畠山耕治—青銅を鑄る」展をご案内させていただきたくプレスリリースをお送りいたします。

当館で初の金属を素材とする展覧会として本展を開催します。

畠山耕治(1956～)は鑄物(いもの)の歴史を持つ富山県高岡市を拠点に、青銅を素材とした鑄金(ちゅうきん)による造形に創造性を示してきました。鑄金とは溶解した金属を型に流し込んで成形する技術で、その技術による製品を鑄物といいます。

畠山の作品は抑制の効いた造形と臨場感のある表情に特徴があります。鑄金は型に合わせて複雑な形状をとることのできる技法ですが、「青銅の存在そのものを鑄込む」という自身の制作欲求と造形感覚を、直線とわずかな曲線で構成したシンプルな造形に表しています。そして、薬品や熱などによる化学反応で色彩と質感を創出し、青銅の造形に命を吹き込むのです。

本展では畠山を代表する制作として箱をはじめとする器形態の作品をご覧いただけますが、制作全体は器形にとどまらず、橋の親柱や街灯、ビルやレストランの壁面、扉など建築分野にまで及びます。これは、鑄金の制作サイズに自由度が高いことを示すとともに、畠山の視点が工芸だけではなく空間や景観まで含めた鑄造技術全般にあることを窺わせるものです。鑄金の可能性とともに独自性、自立性の確立を求める畠山の制作を初期から新作まで60余点でご紹介します。

つきましては、この展覧会を多くの皆様にお知らせいただき、周知にご協力を賜りますようお願い申し上げます。



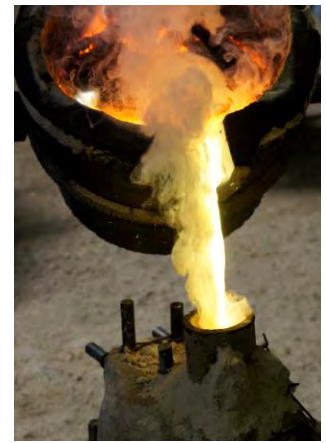
2.「八つの面」2011年

■■展覧会概要■■

- | | |
|--------|---|
| ○展覧会名 | 「畠山耕治—青銅を鑄る」展 |
| ○会 期 | 2022年9月17日(土)～12月11日(日) |
| ○観 覧 料 | 一般 1,100円／大学生 800円／小中高生 500円 |
| ○主 催 | 公益財団法人菊池美術財団、日本経済新聞社 |
| ○会 場 | 菊池寛実記念 智美術館(東京都港区虎ノ門4-1-35) |
| ○開館時間 | 午前11時から午後6時まで(入館は午後5時30分まで) |
| ○休 館 日 | 毎週月曜日(ただし、9月19日、10月10日は開館)、
9月20日(火)、10月11日(火) |
| ○展示内容 | 畠山耕治の青銅鑄造作品を初期から新作まで60余点。 |

鑄金（ちゅうきん）・鑄造（ちゅうぞう）・鑄物（いもの）

鑄金は金属の成形技法の一つです。鑄造ともいわれ、この技法で作られる金属製品を鑄物といいます。加熱して金属を溶かして、あらかじめ作っておいた鑄型（いがた）に流し込み、金属が冷え固まった後に鑄型から取り出して仕上げます。工程として大きく分けると、原型・鑄型作り、金属の溶解・鑄込み、仕上げの3工程になります。鑄型の作製には様々な方法がありますが、外型（そとがた）と中型（なかご／中子）を必要とし、その二つの型の間に金属を流し込む技法といえます。仕上げは、金属型から取り出した後に注入口の跡やはみ出した不要な部分を削り落とし、研磨して表面を整え、熱や薬品などの化学反応で金属の状態を変化させ、色を着けます。着色は塗装とは異なり、金属の変化によって表情を創出する作業です。



溶かした青銅を型に流し込む



着色：畠山の場合は、薬品などを染み込ませた布やスポンジで表面をたたいて、変化させる。

畠山耕治—合理的・思考的造形

畠山の作品は箱を中心に、口の開いたシンプルな器の形で、用途性の低い抽象的な造形といえます。この形状は畠山自身の造形的性向や寸法感覚が反映され、金属素材の存在感もダイレクトに伝える形であると同時に、工房制をとらない個人の制作として合理的な形状であるという見かたもできます。鑄型の構造をシンプルにし、金属が流れ切らないなどのリスクを減らし、削り・磨きなど仕上げの工程もスピーディーに、自身の求める質の制作に辿り着けるからです。

また、初期の作品（図版3、4）は、青銅の造形をそこに存在させることに集中するかなのような純粋な意識が前面に出ていますが、着色技術への習熟に伴い作品における加飾の比重が上がると、面の広いシンプルな造形が金属の多彩な表情を受け止め際立たせる効果にもなっています。これは制作の内側に向いていた作家の視線が、作品と社会の繋がりとといった外側へと変化していったことを窺わせます。

自身の造形上の資質と制作欲求に即し、かつ合理性や戦略的思考を一体にした制作によって、独自性と自立性の確立を求める作家の姿がここに 있습니다。



3,「青銅の筒」1991 年



4,「白銅の箱(A Small, Little Thing)」1999 年

東京で見る金工展・海外から見る畠山作品

陶芸とは異なり、近現代の金工については展覧会を東京の美術館が開催すること自体が珍しく、千住金属工業(株)が母体となる石洞美術館(足立区)の展示をのぞけば、東京国立近代美術館の工芸館でも1983年に開催した「モダニズムの工芸家たち—金工を中心に—」以降、ジュエリー展は企画されていますが、金工を中心とした展覧会は2011年「増田三男 清爽の彫金…そして、富本憲吉」まで開催されていません。現役作家の回顧展となると少なくとも東京では初めてのことでないでしょうか。

日本において、中国の古い青銅器や、茶道や華道の道具としての金工作品は目にしても、用途を排した抽象造形として現代の金工作品を鑑賞する機会は極めて少ないといえます。畠山にとっても、作品発表の場は日本よりむしろイギリスを中心としたヨーロッパが主であるといえます。

ヴィクトリア&アルバート博物館学芸員の山田雅美氏は畠山作品が欧州を中心に国外で評価を受ける理由に日本的な感性と技術が反映された着色による加飾を挙げます。金属の煌びやかさよりも錆びやざらついた質感を愛でる日本の傾向は、表面加飾の技術を発展させ、その化学変化を生かし尊重しながら独自に意匠化する畠山の着色は、海外コレクターを魅了しているといえます。また、多様な立体造形を表現手法とするイギリスの傾向に対し、シンプルな造形も畠山の制作を際立たせる要因となっているようです。そのような視点は、多数の国外の美術館へ作品が収蔵されていることにも繋がっているといえるでしょう。



5, 「白い雨」2002年 高岡市美術館蔵



6, 「十の面」2007年



7, 「八つの面」2010年



8, 「六つの面」2010年 東京国立近代美術館蔵



9, 「十二の面」2018年

コミッションワーク

ー 鑄造技術の可能性を追求する

畠山の制作は器形状の工芸作品だけでなく、橋の親柱や欄干、街灯などの公共事業から、ホテルやレストラン、ビルの内装といった建築にまで及びます。内容はデザインと制作を兼ねる場合と、デザイナーからの注文に応える場合とがあり、1980年代からインテリアデザイナーの杉本貴志が手掛ける多数のホテルや飲食店で壁面などの内装に関わっています。コミッションワークとしての大型の鋳物制作においては、依頼の内容に合わせて設計し、縮尺模型を作り鋳型を外注して、工場で職人たちと共に鑄造し、現場への設置まで大掛かりな作業になります。鋳金はネジのような小さなものから土木建築の一部になる大きなものまで制作できる技術ですが、畠山の視線が工芸作品のみならずその技術による制作全般にあり、また、それが設置される空間全体にあることをこのコミッションワークが示します。

当館の展示室内の一部壁面や敷地入口の館銘板も畠山によるもので、当館創立者の菊池智が依頼し、制作されました。



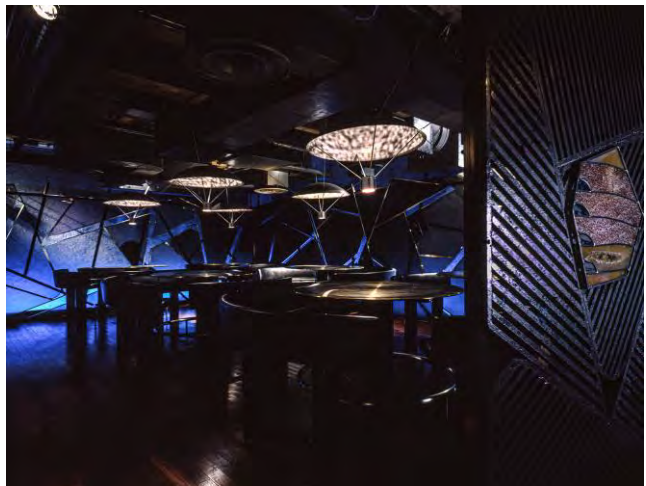
北陸新幹線 新高岡駅前広場 モニュメント(富山)撮影:伊ヶ崎忍



「岩瀬運河」(富山)街灯、欄干



「ggg ギャラリー」(銀座／東京)
扉、天井、扉の取手など
撮影:白鳥美雄



BAR「OLD&NEW」(赤坂／東京)テーブル、撮影:白鳥美雄

杉本貴志 (1945～2018、武蔵野美術大名誉教授) 国内外のホテルや飲食店を設計し、田中一光と共に西武百貨店の環境計画に参加。「無印良品」店舗のデザインを手掛けた。84、85年に毎日デザイン賞を受賞。図版の「ggg ギャラリー」と「OLD&NEW」も杉本がインテリアデザインを担当している。

■畠山耕治 略歴

1956 富山県生まれ

1980 金沢美術工芸大学卒業

1985 富山県高岡市に工房設立

2017～2022 金沢美術工芸大学教授

受賞歴

1987 工芸都市高岡'87 クラフト展 奨励賞

1988 工芸都市高岡'88 クラフト展 銀賞

1998 第一回佐野ルネッサンス鍍金展 奨励賞

2001 タカシマヤ文化基金タカシマヤ美術賞

2002 第三回佐野ルネッサンス鍍金展 奨励賞

2007 第四回佐野ルネッサンス鍍金展 大賞

2012 MOA 岡田茂吉賞 MOA 美術館賞

菊池寛実記念 智美術館「茶の湯の現代—用と形」展 奨励賞



所蔵先

ヴィクトリア & アルバート博物館／イギリス、バーミンガム美術館／イギリス、スコットランド王立美術館／イギリス、アバディーン美術館／イギリス、アッシュモレアン美術館／イギリス、フィラデルフィア美術館／アメリカ、パリ装飾美術館／フランス、国立ギメ東洋美術館／フランス、フランクフルト応用美術館／ドイツ、デンマーク王室、ヴィクトリア国立美術館／オーストラリア、ニュー・サウス・ウェールズ州立美術館、南オーストラリア美術館／オーストラリア、アルゼンチン近代美術館

東京国立近代美術館、金沢 21 世紀美術館／石川、国際交流基金／東京、菊池寛実記念 智美術館／東京、高岡市美術館／富山、樂翠亭美術館／富山、資生堂アートハウス／静岡、MOA 美術館／静岡、薬師寺／奈良、イセ文化基金／東京、MIHO ミュージアム／滋賀

■■関連行事■■

■畠山耕治・アーティストトーク

11 月 19 日（土）15 時から当館 B1 展示室にて

■学芸員によるギャラリートーク いずれも土曜日、14 時から

9 月 24 日／10 月 15 日、29 日／11 月 5 日、26 日／12 月 3 日

■ナイトミュージアム「聴こえる造形～バロック・チェロ」

閉館後の展示室で演奏会を開催します。

演奏：懸田貴嗣（バロック・チェロ）

日時：10 月 9 日（日）18:45 開演（18:30 開場）

定員：40 名

参加費：2500 円＋入館料（一般 1,100 円）

■本展覧会について広報媒体へ掲載、取材をいただく場合、本リリースに紹介されている作品画像をデータでお貸し出しいたします。申込書のご希望の図版に☑を記し、用紙を返信のうえ、お問い合わせください。ご紹介いただく記事、番組内容については、情報確認のため校正の段階で事務局までお知らせください。お貸出しする画像データは本展覧会終了をもって使用期限とさせていただきます。作品の画像を1点以上ご掲載の上、本展をご紹介くださる媒体に対し、本展ご招待券を読者プレゼント用に提供いたします。申込書、所定の欄に招待券希望の旨を明記してください。

お問い合わせ先 菊池寛実記念 智美術館（担当：島崎・足立）

掲載・画像貸出申込書

返信先 FAX：03-5733-5132

●貴社基本情報

会社名：	
担当部署：	担当者名：
住所：	
電話・FAX	E-MAIL：

●媒体情報

新聞 雑誌	媒体名：	
	発行日：	発売日：
TV ラジオ	媒体名：	
	放送日：	放送時間：
ネット	URL：	

●画像貸出リスト ※キャプションには作者・作品名・制作年・所蔵者・撮影者を必ず入れてください。

希望作品に☑	作品キャプション
☐	（表紙・図1） 畠山耕治「青銅で在ること」2022年 h31.0×φ74.5cm（撮影：沼忠之）
☐	（図2） 畠山耕治「八つの面」2011年 h38.5×w16.0×d17.0cm（撮影：沼忠之）
☐	（図3） 畠山耕治「青銅の筒」1991年 h27.0×φ34.0cm（撮影：沼忠之）
☐	（図4） 畠山耕治「白銅の箱（A Small, Little Thing）」1999年 h28.5×w35.6×d13.4cm（撮影：沼忠之）
☐	（図5） 畠山耕治「白い雨」2002年 h33.8×w39.7×d21.3cm 高岡市美術館蔵（撮影：沼忠之）
☐	（図6） 畠山耕治「十の面」2007年 h18.0×w20.0×d19.0cm（撮影：沼忠之）
☐	（図7） 畠山耕治「八つの面」2010年 h33.5×w44.0×d17.50cm（撮影：沼忠之）
☐	（図8） 畠山耕治「六つの面」2010年 h34.0× w36.5× d19.0cm 東京国立近代美術館蔵（撮影：沼忠之）
☐	（図9） 畠山耕治「十二の面」2018年 h37.0×w30.0×d13.5cm（撮影：沼忠之）

●読者プレゼント用チケット希望： ☐5組10名様 ☐10組20名様

※チケットのお届けは9月以降になります。

プレスプレビューのご案内

展覧会の趣旨、作品解説など、内覧会に先立ちましてプレスの皆様にご説明申し上げます。
ご多用のなか恐縮に存じますが、どうぞご出席くださいますようお願い申し上げます。

菊池寛実記念 智美術館

プレスプレビュー 2022年9月16日（金） 14:00 ～

14:00 ～14:45 展示室にて、展覧会のご説明、作品解説などを行います。
展覧会の会場内をご撮影いただけます。

14:45 ～15:00 皆様からのご質問にお答えいたします。

※新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、場合によっては中止いたします。

会場： 菊池寛実記念 智美術館 〒105-0001 港区虎ノ門 4-1-35 西久保ビル B1

- ・日比谷線・神谷町駅出口 4b より徒歩 6 分
- ・日比谷線・虎ノ門ヒルズ駅：出口 A1・A2 徒歩 8 分
- ・南北線・六本木一丁目駅改札口より徒歩 8 分
- ・南北線／銀座線・溜池山王駅出口 13 より徒歩 8 分
- ・銀座線・虎ノ門駅： 出口 3 より徒歩 10 分

ご出席いただける場合は、下記フォームにご記入の上、E-mail もしくは FAX にて
ご返信下さい。 **E-mail** info@musee-tomo.or.jp
FAX 03-5733-5132

会社名：

担当部署、氏名

住所：

電話：

FAX：

Email